

# 令和5年度埼玉県高等学校PTA連合会

## 高校教育とPTA専門委員会研修会 参加報告

開催日：令和5年11月20日(月) 13:00~16:30

会場：埼玉会館 小ホール

主催：埼玉県高等学校PTA連合会 高校教育とPTA専門委員会

参加者：大塚、廣田



### 講演会

解説：目白大学 保健医療学部言語聴覚学科 教授 春原 則子 様

#### 『失語症を知る』

失語症は頭のケガや脳梗塞等の脳の病気で引き起こされる高次脳機能障害。失語性のある人は全国で約50万人いるとされる。言葉の音を正しく認識しにくい、言葉の意味が理解しにくい、言葉が思い出せない、言い間違える、文字が思い出しにくい等の症状が特徴で、コミュニケーションに支障をきたす。ただし、考える力、想像力、感性などは損なわれない。

失語症は孤独病と言われるように、外見からはわからない障がいであるため理解されにくい面があるため、家族や友人、職場の仲間、言語聴覚士のサポートが重要である。



講師：東京海上日動火災保険株式会社 池田 博之 様

(サポート：東京海上日動火災保険株式会社 原 繁 様)

#### 『笑顔の授業～支えあう社会のために～』

講師の池田様は2015年に脳梗塞で倒れ、右半身の感覚マヒと失語症を発症。その後、身体機能と失語症のリハビリを経て2年後に復職を果たす。会社ではリハビリの協力として「池田さんと話そう会」という個別対話や、社内での2行メール交換の機会を設けており、それは会社の社員にとっても多様性を理解する場となっている。

一般的には失語症を発症すると復職が困難であり、実際に失語症を発症した約50万人のうち、復職ができたのはわずか8パーセントにとどまっている。それは社会の理解、行政や企業の支援体制の不足も原因のひとつ。自身の経験を伝えることで、失語症に関する理解が広まり、他者を理解することに繋がると期待している。またそうすることが、ダイバーシティ&インクルージョンの実現に繋がるとの認識を社会の皆に持って欲しい。



## 各支部実践発表

- 東部支部…埼玉県立羽生第一高等学校『羽生第一高校 PTA の取組～連携・協力、そして再生へ～』  
コロナ禍を経て、これからの時代に合った新たな PTA 活動を再生していく。
- 西部支部…埼玉県立滑川総合高等学校『学校の教育活動と連携した PTA 活動』  
PTA、後援会共に、学校と協議しながら教育活動への支援を行う。
- 南 支部…埼玉県立鳩ヶ谷高等学校『子供たちのより良い成長を目指して』  
学校と共に子どもを育てる組織として協力態勢を整えている。
- 北部支部…埼玉県立北本高等学校『ポストコロナの PTA 活動の在り方を探る』  
会員の声を元に PTA 組織や活動形態・内容について検討や変革を行っている。



## 【講 評】

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課 社会教育主事兼指導主事 永井 智弘 様

- 羽生第一高等学校  
⇒再生を前向きに目指した活動。保護者も楽しみながら活動していく姿勢が良い。
- 滑川総合高等学校  
⇒学校との繋がりを大切にし、風通しのいい緊密な連携で活動の目的が明確。
- 鳩ヶ谷高等学校  
⇒子どもたちによりそった活動。アンケートに即した課題のあぶり出しが見事。
- 北本高等学校  
⇒地元に根差した活動。時代に即した PTA の在り方を模索するチャレンジが素晴らしい。

## 所 感

### ●講演会について

失語症の症状が、「話す」以外にも「読む」「書く」「聞く」といった言葉の機能全般に不具合を生じるものだと初めて知りました。ダイバーシティ&インクルージョンという観念の重要性が高まっている今、社会において個々人のできることを認め、受け入れる姿勢が大切だと強く感じました。

### ●各支部実践発表について

全体を通して、どの PTA もコロナ禍を活動の見直しをするいい機会につなげていると思いました。PTA 活動を時代に応じたものにしていくための話し合いは、これから避けては通れない道だと思います。

(文責 本部)